

孔子と『論語』(16回)

心地良い春は新鮮そのもの、5月を「Maya: May」(成長の女神)とした先人の知恵に敬意します。有名な俳句「目に青葉、山ほととぎす、初鯉」は、希望・喜びがあふれ勇気が迸(ほとばし)るように感じます。

論語も又、2500年以上経た今でも常に「春」の新鮮味です。

どなたでもいつでも歓迎の千葉木鶏クラブです。

皆様のお越しをお待ちしています。

記

進む

1. 日 時 : 平成 28 年 5 月 28 日 (土)
AM 9 時 30 分 ~ 12 時 00 分
2. 場 所 : 千葉生涯学習センター ☎043-207-5811
<交通案内> JR 千葉駅東口から 徒歩 8 分 駐車場有り
3. 会 費 : 1000 円
4. 演 題 : 孔子と『論語』 第 16 回 憂世と避世 「安岡正篤」講和選集より
 - (1) 夜郎自大の戒め 『論語』憲問第十四
子路君子を問う。子曰く、己を修(おさ)むるに敬を以てすと。
曰く、斯(かく)の如きのみかと。曰く、己を修めて以て人を安んずと。
曰く、斯の如きのみかと。
曰く、己を修めて以て百姓(せい)を安んず。己を修めて以て百姓を安んずることは、堯舜も其れ猶(なを)諸(これ)を病(や)めりと。
 - (2) 斯の人の徒と共に: 孔子の人的精神 『論語』微子 第十八
長沮曰く、夫(か)の與(よ)を執(まも)る者は、誰とか為(な)す。
子路曰く、孔丘と為すと。曰く、是れ魯の孔丘か。対(こた)えて曰く。是なりと。
曰く、是ならば津を知らんと。」桀溺に問う。桀溺曰く、子は誰とか為す。
曰く、仲由と為すと。曰く、是れ魯の孔丘の徒かと。対えて曰く、然り。
曰く、滔(とう)滔足る者、天下皆是なり。而して誰と以(とも)にか之を易(か)えん。且つ爾(なんじ)其の人を辟(さ)くるの士に従わん(より)は、豈(あ)に世を辟く(よ)の士に従うに若(し)かんやと。
擾(ゆう)して輟(や)まず。子路行きて以て告ぐ。夫子憮然として曰く、鳥獸は与(とも)群(ぐん)を同じうすべからず。吾・斯(こ)の人の徒と与(とも)にするに非ずして、誰と与にせん。天下道有らば、丘与(とも)に易(か)えざるなりと。」

[千葉木鶏クラブ](#) 代表兼事務局 [丸島 忠夫](#)

[Email: marushima_t@snow.plala.or.jp](mailto:marushima_t@snow.plala.or.jp) [Tel: 0475-25-1211](tel:0475-25-1211) [Fax: 0475-38-5153](tel:0475-38-5153)

第 16 回 憂世と避世

「安岡正篤」講話選集『孔子と論語』より

(1) 夜郎自大の戒め

『論語』憲問第十四

子路君子を問う。子曰く、己を修（おさ）むるに敬を以てすと。

曰く、斯（かく）の如きのみかと。曰く、己を修めて以て人を安んずと。

曰く、斯の如きのみかと。

曰く、己を修めて以て百性（せい）を安んず。己を修めて以て百姓を安んずることは、堯舜も其れ猶（なを）諸（これ）を病（や）めりと。

<補足>

- ・「己を修（おさ）むるに敬を以てす」は「己を修めて以て敬す」と読んでも可。
- ・「敬」とは、偉大なるものに対して生ずる心であり、理想を求るよりして生ずる心でもある。人々はいたずらに天下を治めるといふようなことを大切なりとする傾向があるが、これはたいてい観念の遊戯や夜郎自大になる。誠より言えば、小乗、小学、修身ということは容易でない大事な問題なのである。
- ・スイスのヒルティ（C・Hilty 一八三三—一九〇九）が、人間の真実の正しさは、礼節と同様、小事における行いに表れる。小事における正しさは道德の根底から生ずるのである。これに反して大げさな正義呼ばわれは単に習慣的であるか、あるいは狡智に過ぎぬことがある。人の性格については、未だ判定できぬことがある。
- ・僧、趙州（じょうしゅう）に問う。「學人乍入（さにゆう）叢林（そうりん）：叢林に入ったばかりの新参者、乞う師、指示したまえ）。州曰く、「粥（かゆ）を喫（きつ）し了（おわり）しや、未だしや」。僧曰く、「喫し了れり」。州曰く、「鉢干（はつう）を洗い去れ」。その僧、省あり。

(2) 斯の人の徒と共に —— 孔子の人道的精神

『論語』微子 第十八

「長沮（ちょうそ）桀溺（けつでき）。耦（ぐう）して耕す。孔子之を過ぎ、子路をして津（しん）を問わしむ。

長沮曰く、夫（か）の與（よ）を執（まも）る者は、誰とか為（な）す。

子路曰く、孔丘と為すと。曰く、是れ魯の孔丘か。対（こた）えて曰く。是なりと。

曰く、是ならば津を知らんと。」桀溺に問う。桀溺曰く、子は誰とか為す。

曰く、仲由と為すと。曰く、是れ魯の孔丘の徒かと。対えて曰く、然り。

曰く、滔（とう）滔足る者、天下皆是なり。而して誰と以（とも）にか之を易（か）えん。

且つ爾（なんじ）其の人を辟（さ）くるの士に従わん与（より）は、豈（あ）に世を辟くるの士に従うに若（し）かんやと。

擾（ゆう）して輟（や）まず。 子路行きて以て告ぐ。

夫子憮然として曰く、鳥獸は与（とも）群（ぐん）を同じうすべからず。

吾・斯（こ）の人の徒と与（とも）にするに非ずして、誰と与にせん。

天下道有らば、丘与（とも）に易（か）えざるなりと。」

<補足>

長沮（ちょうそ）桀溺（けつでき） : 宋の金履祥は、身体の大きな人物であることが分かると説いている

耦（ぐう）して耕す : 並んで鋤（すき）を使う。

擾（ゆう）して輟（や）まず : 土ならしをして種を蒔くこと。仕事を止めないで顧りみなかった。

責了 事務局